

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	観光協会連携事業費補助金			
担当課係名	観光課	観光係	作成者	阿部 聡
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 60
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし		
	主要施策	観光と他産業のネットワーク化		
予算費目	一般会計	7款 商工費	1項 商工費	3目 観光費
事業期間	平成 - 年度 ~ 平成 - 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス	<input type="checkbox"/> 公共事業	<input type="checkbox"/> 施設維持管理	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理
根拠法令等	仙北市総合計画			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託）	<input type="checkbox"/> 民間委託（全部）	<input checked="" type="checkbox"/> 補助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市を訪れる観光客等
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市3地区の観光協会（角館町観光協会、田沢湖観光協会、西木観光協会）が行う連携事業のスムーズな実施のために
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	各種連携事業を協力的に推進し、もって仙北市観光の振興に資する

【事務事業の推移】

	項 目		単位	23年度実績		
	効果	活動指標	観光客数	目標	人	7,560,000
実績				人	3,840,421	
達成度				%	50.8%	
成果指標		宿泊者数	目標	人	1,150,000	
			実績	人	541,254	
			達成度	%	47.1%	
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)		
	事業費（人件費を除く）(A)		—	15,224		
	人 件 費 (B)		—	8,479		
	職 員 数		—	1.00		
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479		
	(A) + (B) 投下コスト		—	23,703		
	財源内訳	国 庫 支 出 金		—	0	
		県 支 出 金		—	0	
		地 方 債		—	0	
		そ の 他		—	15,224	
		一 般 財 源		—	8,479	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	6		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	796		

【事務事業の今までの成果】

田沢湖・角館観光連盟で実施した秋田美人100人キャンペーンでは、地元を含め各界・各方面からの協力をいただき、東京都JR有楽町駅前、JR上野駅構内において仙北市をPRするイベントを展開し、震災後の冷え切った仙北市への誘客を積極的に展開した。国を含めマスコミからも「秋田美人」を素材とした観光PRが高く評価され、秋季・冬季観光客の誘客に大きく貢献していただいた。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	「秋田美人」を素材とした観光宣伝の先駆けとなった取り組みを行ったことにより本市への注目度は高くなり、各方面からも動静を伺う問い合わせが多く来ている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	観光連盟の行う事業に対して注目度が高くなると共に、期待度も高くなっている

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	事業主体の観光連盟が設立され連携事業が行われて2年目（H24年度）であり、事業検証、結果分析し今後の展開につなげていく必要性を強く感じているため。 来年度にはJR東日本が行うディスティネーションキャンペーンが予定されており、タイアップした事業展開を図ることで、本市観光業の振興に寄与することが大きく期待できるため。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 2	連携事業については、事業主体である観光連盟に一本化して予算計上することを検討する必要があると考えます。常に補助金の有効性等を検証し、見直しを実施していくことが必要と考えます。

